

まちかどトーク（外国人）運営業務委託
報告書

令和5年2月28日



公益財団法人

南砺幸せ未来基金

1. 事業概要

(1) 背景

南砺市内在住の外国人の方は増える傾向にあるものの既存の調査方法では必ずしも外国人の方々の生活実態の等が反映されているわけではない。また、日本語の習熟度によって相談窓口へ来て相談すること自体に困難を抱えている。

(2) 目的

現状の仕事や生活に関する困り事や悩みなど、現状（課題やニーズ）の把握が、本事業における大きな目的である。今回は「防災」にテーマを絞り、南砺市内在住外国人支援へ市の施策へ活かす。

2. 実施概要

外国人のための日本語教室を定期的に開催するボランティアグループ『にほんご広場なんと』の協力を得て、教室に参加されている外国人を対象に現状の把握を行った。

今回は特に「防災」をテーマとし防災に関する意識、言葉への理解度のほか、防災に関する情報をどのように収集したり、実際の防災・減災行動に移すことができたりするかなど、（にほんご広場なんとサポーターとの）ペアワークを通じて現状把握を行った。

日時：2月19日（日）10～12時

場所：福光交流センター

テーマ：防災に関する知識

参加者：外国人7名（男性3名、女性4名）

【国籍：ベトナム、フィリピン、インドネシア】

【年代：20代；5名、30代；1名、40代；1名】

【在住期間：半年；1名、2年；3名、4年；1名、9年；1名、15年；1名】

(1) 当日の流れ

- ① 防災に関する基本的な言葉の説明（自然災害、豪雨、洪水など）
→わかること・わからないこと
- ② 南砺市の防災資料（防災に関する日本語による案内チラシ）
→わかること・わからないこと
- ③ 平成20年7月、市内の豪雨災害について、被災された方の話を聞く
- ④ ペアワークによる意見収集（避難、気をつけること、情報、あなたができること）
→知っていること、思いつくこと、できる行動など
- ⑤ 全体発表
- ⑥ 南砺市地域の防災マップを見ながら避難場所の確認

(2) 参加者の意見

日本語で書かれた防災情報のチラシをみて

《意見》

- ・チラシに『自らの身は自ら守る』とあるが、「自ら」という言葉が難しくわからない。
- ・「防災」「被害」という言葉の意味がわからない。用語がほとんどわからない。
- ・「避難」という言葉。なんとなく分かるが、漢字が難しく読めない。

《補足》

⇒防災に関する用語は日常用語ではないため、そもそも知らない、わからない。

日本人が考える以上に、言葉の意味を知らないため、まず言葉の説明することが必要。

⇒情報発信をしても、伝わっていないことがわかる。

(やさしい日本語で言い換えて伝える必要がある)

平成20年7月、南砺の豪雨災害についての話を聞く

《意見》

- ・自分の住む家の近くに川があることは意識したことがない。
- ・川が危険だと思ったことがなかった。
- ・水が入ってきたことがなく、イメージができない。
- ・話を聞いて「怖い」と思った。
- ・「用水」という言葉がわからない。

《補足》

⇒自然災害を経験したことのない人も多いため、実際の「災害」、「被災」、「避難行動」のイメージがわからない。

⇒避難行動をとってもらうためには、そもそも「なぜ防災が必要か」という説明から必要。

⇒避難訓練の経験もないため、聞いただけで理解（行動すること）は難しいと思われまます。

ペアワークによる意見収集 もし大雨が降ったら？（知っていること、わかっていること）

問「いつ、どこへ避難しますか？」

《意見》

- ・高いところへ（2階、3階など）逃げる。
- ・安全な場所へ逃げる。（避難場所はわかる／わからない）
- ・外出時は、スーパー・公民館・体育館・学校などの大きな建物に避難する。
- ・レベル4になったら逃げる。

問「情報はどのように得ますか？」

《意見》

- ・友達や知人との情報交換
- ・Facebook（友人、にほんご広場、南砺市）で。
- ・インターネット（スマホ）、時々テレビ（母国）から。
- ・家族から。
- ・職場（自分ではわからないと思ったら、会社に電話をかけて聞く）
- ・日本語学校で防災について学んだ。
- ・情報をとる方法がわからない。

《補足》

⇒テレビや行政から得られる情報（単語）が外国人にとって難しいため、日本語の習熟度によって情報の取り方にばらつきがある。（在日年数や、就業の状態により、差がある）

例①日本語の上手な外国人から聞く 例②勤務先の日本人から聞く

⇒早く正確に情報を知らせる方法について、実態を把握したうえで情報提供手段の検討を要する。

問「気を付けることは何だと思いますか？」

《意見》

- ・雨がひどい時は、危険なため外出を控える。
- ・危ない時は自転車で出かけない。
- ・外に通じるドアのチェックをする。（浸水しないようにする）
- ・ガス、電気の元栓をしめる。
- ・慌てて家から出ない。
- ・ニュースをちゃんとみる。
- ・避難レベルに応じて行動する。（テレビを確認する）
- ・天気予報をみて、行動を考える。
- ・自分の大事なものを準備する。（例：在留カード・パスポート・お金・キャッシュカード）
- ・防災グッズを備える。（例：食料・水・薬・ライト・合羽など）

《補足》

⇒情報源がスマートフォンである場合が多いが、通信契約をしていない人も多い。

（情報を得るためにも）公共スペースのWi-Fi環境が必須である。

問「どのようなことを知りたいですか？」

《意見》

- ・避難する際の移動方法
- ・避難場所についての情報（設備、寝る場所、避難期間、食事、何があるのかなど）
- ・警戒レベルにおいて気を付けること

《補足》

⇒日常の中で、防災に関する基本情報について知る機会がほとんどないことが伺われる。

問「お願いしたいことはありますか？」

《意見》

- ・インターネットがつながる環境（フリーWi-Fi完備）
（Wi-Fiでしか使えない端末の人が多。外出すると情報が取れなくなってしまうため）
- ・大切なことだけを強調して通訳・翻訳してもらえるとわかりやすい。
（最初から全部は不要。情報量が多すぎると分かりにくい）
- ・（日本語がわかる人・職場に）情報を伝えてほしい。
- ・アプリが開いても漢字ばかりで読めない（ふりがな必須）
- ・母国語に変換できたらいい。
- ・防災スピーカーが聞きづらい（聞き取れない）。
- ・市の情報媒体は、難しくてわからない（言葉の壁を感じる）。
- ・「やさしい日本語」で情報を出してほしい。
- ・避難訓練に参加したい。

問「自分ができることはどんなことだと思いますか？」

《意見》

- ・ボランティア（掃除・片付け・食事のお世話）ができます。
- ・お年寄り、子どもを助けることができます。
- ・みんなと協力できる。
- ・友達に連絡することができる。
- ・言葉を伝えることができる（日本語がわからない人たちに）。

《補足》

⇒自分たちが支援されるだけでなく、自分たちでもできることは、やりたいという声をたくさんいただきました。

⇒実際に災害が起これば、地域でのつながりが重要になってきます。日頃から地域とつながっていることで、安全な避難行動をとることができます。

3. まちかどトークをまちづくりへ活かすために

南砺市に住む外国人が、日頃どのような事に困っていて、どのような支援を必要とされているか、まず知る事がとても重要です。様々な困りことを抱えておられる外国人の方々の目線に立ち、行政からの情報発信のやり方、仕組みを検討する必要性を感じました。

今回の事業では、「防災」とテーマを絞ってご意見を伺いました。日常言語以外を習得する機会に乏しい外国人の方々にとって、日本人にとっては当たり前の言い方や言葉の使い方も、大きな言葉の壁となっていることがわかります。

(当日の様子)

- ① 南砺市豪雨災害 被害状況についての話を聞きました。



- ② 外国人と日本語サポーターとがペアになって、話をしました。



- ③ 全体発表

